

生活支援技術論

《担当者名》 池森 康裕 (デ) sr528@hoku-iryo-u.ac.jp 高橋 由紀

【概要】

日常生活は、複数の生活動作が連続して行われることで成立し、目的が達成されている。介護を必要とする人の心身状態と生活環境を適切に把握し、残存能力やできる活動を活用することは、自立した生活の継続に向けた支援の基本となる。本科目では、さまざまな生活場面の事例を用いて、アセスメントに基づく支援計画の立案から、生活支援技術の選択・実施・評価までを統合的に学び、根拠に基づく総合的な介護方法を修得する。

【学修目標】

さまざまな事例に基づき、根拠を示しながら生活支援技術を選択・組み立てて提案し、自立した生活の継続に向けたより良い介護方法を説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	授業の概要や達成目標を理解する。	池森
2	介護過程に基づいたケアの実施1	個別化の視点を持ち介護計画の立案ができる。	池森、高橋
3	介護過程に基づいたケアの実施2	介護計画を実施し、評価することで、介護過程の連続的なサイクルを理解する。	池森、高橋
4	介護過程に基づいたケアの実施3	介護のプロセスを科学的思考と問題解決思考に基づいて考えられ、意図的に行う介護の根拠を導き出すことができる。	高橋
5	介護過程に基づいたケアの実施4	介護のプロセスを科学的思考と問題解決思考に基づいて考えられ、意図的に行う介護の根拠を導き出すことができる。	高橋
6	OSCE事例演習1	認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法を理解して、能力に応じた排泄ケアが支援できる。	池森
7	OSCE事例演習2	認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法を理解して、食後の口腔ケアが支援できる。	池森
8	視覚障がい者の介護	視覚障害のために阻害される安全性について、食事介助の事例から考え、どのような支援を行っていくべきか理解する。	高橋
9	利用者の力を活かすベッドへの移乗介護	左片麻痺がある高齢者の安全なベッド移乗と、体位変換方法を理解する。	池森
10	認知症のBPSDへの対応	事例をもとに、認知症のBPSDに対してどのような対応方法があるか、個人の尊厳を踏まえながら支援できる。	高橋
11	ベッド上の移動、環境整備	左片麻痺がある高齢者の麻痺側の保護を行いながら、自立に向けたベッド上での移動方法を理解する。また、移動によって不備が生じる環境について理解する。	高橋
12	かぶり物の着衣介護	右片麻痺がある高齢者が、自立に向けた入浴後の着衣介助(かぶり物)の方法と、安全な車いす移動について理解する。	池森
13	片側麻痺がある高齢者の移動介護	左上下肢に麻痺がある高齢者の、安全・安楽な床から(長座位)の立ち上がり(立位)方法を理解する。	池森
14	まとめ1	今までの事例を通して、利用者の健康状態、心身機能・身体構造、活動・参加目標、さらには個人・環境因子を総合的に判断して、自立に向けた支援ができる。	池森、高橋
15	まとめ2	今までの事例を通して、利用者の健康状態、心身機能・身体構造、活動・参加目標、さらには個人・環境因子を総合的に判断して、自立に向けた支援ができる。	池森、高橋

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

介護OSCEと位置づけ、アセスメント試験50%、実技試験50% 合計100点で評価する。

【教科書】

無し。講義時に資料を渡すので、ファイルにとじて毎回持参すること。紛失しても再発行は行わない。

【備考】

この科目は介護福祉士国家試験受験資格取得のための「生活支援技術」に該当する。

【学修の準備】

1. 動きやすい服装と上靴を準備すること。スカートや土足では講義を受けられないので注意すること。
2. 講義・演習で渡した資料はファイルに保管して、毎回持参すること。
3. 演習課題に関して、事前・事後学習に取り組むこと。（予習・復習）
4. 事例を読み各自アセスメントして課題に取り組むこと。（予習）
予習：2時間 復習：2時間

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2:福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP1:人間の生命および個人の尊重を基本とする高い倫理観と豊かな人間性を身につけている。

DP3:社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

DP4:保健・医療・福祉をはじめ、人間に関する様々な領域の人々と連携・協働できる能力を身につけている。

【留意事項】

演習時は、学生同士のグループで進めていくので、遅刻・欠席は他の学生へ影響を及ぼしかねない。

- ・遅刻、早退、欠席は極力避けること。
- ・15分以上の遅刻・早退は欠席扱いとする。
- ・遅刻・早退3回で1回の欠席としてカウントするので注意すること。

【実務経験】

池森康裕（介護福祉士）、高橋由紀（介護福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職として、実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。